

## <金標準、インフレ低下と YCC 修正観測から戻り売り傾向・・・>



(出所：オアシス)

日本のインフレ期待が9年ぶりに1.16%まで上昇し、米国では消費者物価指数（CPI）が前年同月比で3.0%へ低下し、生産者物価指数（PPI）も前月比で0.1%低下するなど、9月のFOMCにおける利上げ確率が15%まで低下している。

また元日銀理事の早川氏がイールドカーブコントロール（YCC）における「長期金利の変動幅を拡大する可能性が高い」と発言しており、市場では28日の日銀金融政策決定会合でYCCの修正観測が高まりを見せている。そのため為替市場では、一時145円まで円安が進む動きを見せたが、今週は円キャリートレードの巻き戻しから137.96円まで円高が進む動きを見せる中で、金標準先物は8962円の高値から8661円まで下値を試すなど、円建て価格の弱さを見せている。特に21日には日本の消費者物価指数が発表されるため、発表次第では円高が再熱する可能性は高く、戻り売りの値動きに注意が必要と思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが下げ渋り、シグナルは下げている。RCIでも短期が下げ止まり、長期は下げるなどオシレーターでは明確なクロスサインは発生していない。また日足が下げている10日移動平均線を下回っており、日足の戻りが移動平均線で抑えられる可能性が高いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,250,000 円(2023 年 7 月 18 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 7 月 18 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>